

コミュニティにおける暮らしやすさ —NVivoによるインタビューデータの分析

林 直保子¹

本稿では、大阪府南部のN地区で行ったコミュニティでの暮らしやすさに関するインタビューデータを、質的分析支援ソフト NVivo で分析した結果を紹介する。

インタビュー調査は、N地区で2014年に「スマートエイジング団地再生モデル事業」の取り組みが開始されてから約5年後の2019年2月～7月に、「N地区への転入についての調査研究」として実施した。調査対象者は、比較的近年N地区へ転入された方を対象に、地域のまちづくり拠点を通じて募集した²。インタビューには、30代5名、40代3名、60代1名、70代2名の計11名の方に参加いただくことができた。

インタビューに先立ち、調査の主旨、聞き取り内容の秘匿（個人を特定して引用しないこと）を記載した書面を用いて説明し、同意を得た上で実施した。

インタビューは半構造化インタビューの形で行われた。インタビューで聞き取りした内容は、以下の通りである。

- N地区への転入の理由・きっかけ
- 事前の情報収集
- 転居前後の生活の変化
- N地区での暮らし、地域との関わり
- N地区の子育て環境

インタビューは対象者の許可を得て録音し、すべてテキスト化して分析に用いた。また、インタビューデータを分析するため、質的研究支援ソフト（NVivo）を利用した。同ソフトウェアは、文書に含まれるテキスト情報に、分析者が自由にコードを付与することができ、そのコードに基づき当該データの再整理を行うことにより、テキスト情報の構造化を行うことを支援するソフトウェアである。

N地区の暮らしやすさに関する分析結果をTable 1に示す。分析では、まず、N地区の暮らしやすさに関して、物理的な環境要因と社会的な環境要因に大きく分類した。さらに、イ

1 関西大学社会学部教授

2 ただし、近年N地区内で転居されており、N地区への転入から10年以上経過している方1名にも参加いただくことができた。本稿の分析にはその方のデータも含めている。

インタビューで得られたテキスト情報をもとに一旦探索的にコード化した上で、分類名や分類構造の修正を重ねた上で、すべてのデータに対して、再コード化を行った。その結果、物理的な環境に関しては、買い物や医療へのアクセス、移動などの生活利便性、住居そのものへの満足、街並みや景観、静かな環境など、物理的な環境としての街の魅力にカテゴリー化された。

また、社会的環境に関しては、実家や知人・友人、サークルや K テラスなど様々な対象との社会的ネットワーク、子供の教育環境、地域への愛着や地域に受け入れられているという感覚（ウェルカムな雰囲気）などにカテゴリー化された³。

本インタビューは「N 地区への転入についての調査研究」として行われたため、対象者は基本的に過去 8 年以内に N 地区に転入しており、その約半数が転入の時点で未就学児をもっていた。中カテゴリーの「子育て」、小カテゴリーの「教育環境」は、転居先の決め手となった要因として、N 地区の「学区」が挙げられたものである。ただし、同じく社会的環境のなかの「社会的ネットワーク」カテゴリーには、子育て支援としての実家や、K テラスのサポートが含まれており、また、「子育てに適した静かな環境」は、物理的な環境の方に分類されており、社会的な「子育て」環境に分類された「学区」は、むしろ他のカテゴリーに分類されずに残った部分として捉えることができる。

次に、N 地区の暮らしで不便を感じること、リスクを感じていることについて分析を行った (Table 2)。分析の進め方は、基本的に「暮らしやすさ」の場合と同様である。

³ K テラスは 2015 年 10 月に 365 日オープン地域のまちづくりコミュニティ拠点として N 地区 3 丁目のスーパーコマヤの 2 階にオープンした。2016 年 5 月からは月 1 度の子育てサロンを行っているほか、月 1 度地域の情報を発信する「K 通信」の発行など、さまざまな活動を行っている。

Table 1 N 地区の暮らしやすさに関する各カテゴリーおよび具体例

大カテゴリー	中カテゴリー	小カテゴリー	具体例
物理的環境	暮らしやすさ	買い物	買い物は困ってないです。ずっとKで買ってます。意外と人通りがあるので、服とかになると車で行ったりしますが、日々の生活に必要なものは全部ここにあります。子供の上靴なんかもあります。ノートがなくても百貨で買えますし。
		医療へのアクセス	あの病院はね、病院がいっぱいありますよこの通り。動物病院も含めて。動物病院から歯医者もたくさんよくもまあこだけ開業したなと思うほどありますよね。
		移動	私はまだ車運転できませんからね。全然問題ないです。海に行こうと思ったらすぐ行けるし。山はこのあたりいっぱいあるし。お寺もいっぱいあるしね。
	住居	住みやすさ	娘も家や部屋の広さに喜んでる前で前の家に戻りたいとは一切言っていないです。
		街並み	大事に修繕されて住んでる方もいらっしやるので町並みはすごい統一されていていいなと思いますね。
	町の魅力	景観	緑が多いのと空気が綺麗なところ、あとはのんびりした空気が流れていて落ち着きます。
		静かな環境	主人にとっては(通勤で)苦労してるんですけど、静かです。こっちの方が(子育てに)適してるかなと思ってることに。

Table 1 N地区の暮らしやすさに関する各カテゴリー一および具体例（続き）

実家	自分の実家なので頼りにしやすいです。例えば実家に少しの間だけ子どもを預けて 買い物に出かけることが出来るのは実家の近くに住む私にとって利点です。
親戚	主人の家族、お父様、お母様とお兄さんです。何かあったら助けてくれます。
友人・知人	N地区に5年くらい住んでるお友達がいる、（転入前に）その友達にちょっと話を 聞いたらN地区は基本病院と銀行とスーパーと一応この丘の上から降りなくても 一通りはすむよって。
近隣	「よう引越してきてくれたな！」とかすごい言ってくさるので。あーあったか い街やなーと。回覧板もっていくときに「みかん持って帰り！」とか。
社会的ネットワーク	（看護学校の敷地内で行われる）体操教室にみんな集まるでしょう。集まったら、 その集まった方々がまた活発な方が多いね。元気な方が。こっちでカラオケやっ てるとか、ガーデニングやっけるとか、シャンソンやっけるとかいろいろの方がいるわ けですよ。
社会的環境	Kテラス 触れ合いテラスっていうやつなんですけど、なんかあの、婦人会の奥様方もいっば い、面倒見えてくれて、道で会ったら声かけてくれたりとか、そういう人間関係が仲良 い方が多くて、そうやってあったかい感じがしたから、なのでそういうところでは かね。
子育て	教育環境 N地区に引越すときは地元という事と子供の学区を考えて駅前よりも学校の治 安が悪くないと思っただけの手でした。
愛着	地域への愛着 自分が子供の時に住んでたマママンションも周りに団地とかたくさんあって、そこで遊 んでたのでなんか懐かしいなって気持ちも芽生えて、思い出してきて。子供も「今 日はこっちから行って見よ！」とかだんだん地に根づいて土地勘も出てきてすごい 今住みやすさを感じてきます。
	ウェルカムな雰囲気 近隣は自分の親くらいの年齢です。もう同じくらいの人ばかりだったんで。子供が その頃、年少から年中に上がるくらいの時だったんですけど、すみません、うるさ くてみたいないことをお伝えしたら、いや、これまで子供の声しなかつたから嬉しい って言ってきて、外で遊んでても一緒に遊んでくれたりとか。生協にもみんな 入れてもらって、その時も子供連れて行ったら、お家のお庭にお邪魔させてもらっ て、いつでもおいでって言ってもらってたんです。

Table 2 N 地区の暮らしで不便・リスクを感じることに

大カテゴリー	中カテゴリー	小カテゴリー	具体例
生活における不便を感じていること	移動	車	N 地区の問題じゃないですけど、高速道路が遠い、どこに行くにも 30 分以上乗ってからじゃないと乗れないっていうことがある。
		電車	最寄り駅までバスで行かないといけないです。
		自転車	坂道が多くて自転車で乗るのも大変です。
		大病院	病院は、あるのはあります。でもお年寄りが多い割には大きい病院がないですね。
		耳鼻科	内科はあります。子供も診てもらえる内科があります。耳鼻科と眼科がなくて。子供が熱を出したときに行くのが耳鼻科なので近くにないと困ります。
子育て環境	公園	公園がないですかね。あるにはあるんですけど、小さい公園が点在していて、みんなが集まっているみたいないところがないですね。	
	プール	プールがここから 2 駅の C 駅にあって遠いんですね。	
夜道が暗い	公園	習い事	子供たちが習い事をするのも全部移動が車で送迎をしないと行けないので不便です。自転車だと行けないから。
		遊具	送り迎えは必須と感じるくらい静かで暗い道です。危ないと感じる感覚は人それぞれだとは思いますが私は気になりますね。
生活でリスクを感じていること	公園	遊具	公園の遊具が古くて危険です。チェーンのブランコが錆びたりしているのでもう少し安全な遊具があればなと思います。あとは夏場の公園は日陰がなくて休む所がないです。

Table 3 具体的な改善を望んでいること

公園	<ul style="list-style-type: none"> ・外では遊んで欲しいけど、遊ばせる環境がなくて、大きいところを一つ、パンって作ってくれたらそこで皆んな集まって遊べるから同年代でもっと早く関わられたんじゃないかなと思います。同じ場所に乗ってる人が4人いますが、(公園で)あったことがないほどもです。だから、一つ大きな公園があれば、そこでみんな集まれるから、いいかなと思います。子供同士も早く関われるかなと思います。 ・公園の遊具の対象年齢が高いところなんです。小学生くらいにならないと危ないと思うような遊具しかなくて。まだ歩き始めたばかりの2歳の子供には遊ばせられないです。低い滑り台とかがあればいいのになと思います。
買い物・外食	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物に車で行っているのでもう少し近くに(Kスーパーのようなお店が)あってもいいかなと思います。 ・レストランとかファーストフード的なものがあればいいかと、娘と言ってます。よく話してます。イオンモールみたいなないですよ。
移動	<ul style="list-style-type: none"> ・希望として、コミュニティ・バスを通してほしいです。外環にも国立病院にも市役所にも行くようになってきているのに、ここを通っていないんです。そうするとM駅まで行って乗り換えて行かなければならないので、あまり足を運ばなくなりました。だから余計にK駅も廃れてきます。 ・なんとか小さくてもいいから市民のバスがあったら、もっと皆が動けると思っています。体育館も車がないと行けないものです。

生活において不便を感じることは、基本的に移動に関するものと子育てに関するものに集約できる⁴。移動に関しては、高速の入口が遠いというコメントが複数見られたほか、最寄り駅へのアクセス、坂が多いため自転車は不便といった内容で、多くの回答者に共通の内容となっていた。また、子育てに関しては、公園に言及したものが多く、「公園があるにはあるが、使えない」という内容が目立った。公園が使えない理由としては、「公園に人がいない、遊び相手がいない」といったものが多く、K 地区内に小さな公園が点在しており、「誰もが集まる大きな公園」「そこに行けば誰かいるような遊び場」がないことが、子育て世代の悩みとなっていることがわかる。また、子供の習い事の送り迎えが必要ということも、子育て世代の共通の悩みとしてあり、K 地区においては移動に関する不便さが、かなり大きな部分を占めていることが確認された。

生活でリスクを感じることは、夜道が暗くて危険というものと、公園の遊具の老朽化の2種類であった。前者に関しては「街灯を増やすとかなりコストがかかると思うので、緊急時のための対策としてスマホを持たせるか迷う」のような個人的な解決を模索するコメントが複数見られた。

最後に、「不便を感じていること」と類似しているが、具体的な改善を望んでいる内容のコメントをまとめた (Table 3)。Table 3 からわかる通り、公園と移動の改善は K 地区での暮らしの満足度に大きく影響することが予想される。

今回のインタビューでは、近隣トラブルなど対人的な面でのネガティブな内容は一切言及されなかった。インタビューデータの分析を通して、移動と子育ての物理的な環境について、いくつか不便に関していることがあるけれども、社会的なサポートに関しては総じて大変高い満足が得られており、N 地区が住み心地のよい街であると認識されているという結果が得られた。

4 医療に関しても、大病院に通院するためにタクシーを使う必要が生じるなど、結果的に移動の問題としても分類可能なものが含まれている。